

池井優教授略歴

- 一九三五年 一月 二五日、東京都文京区に生まれる
東京第一師範（現、東京学芸大学）付属小学校、同中学校、東京都立青山高等学校卒業
- 一九五九年 三月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業
- 一九六一年 三月 慶應義塾大学大学院修士課程修了
- 四月 慶應義塾大学法学部助手
- 一九六二年 四月 慶應義塾大学法学部助手
- 一九六四年 一月 米国コロンビア大学留学（一九六五年一月まで）
- 一九六五年 四月 慶應義塾大学法学部専任講師
- 一九六六年 三月 慶應義塾大学大学院博士課程修了
- 一九六七年 四月 慶應義塾大学法学部助教授
- 一九六八年 八月 在香港日本総領事館特別研究員（一九六九年七月まで）
- 一九七二年 四月 慶應義塾大学法学部教授（現在にいたる）
- 一九七三年 八月 米国コロンビア大学客員準教授（一九七四年七月まで）
- 一九七八年一〇月 東京大学教養学部非常勤講師（一九七九年三月まで）
- 一九八一年 八月 米国ミシガン大学客員教授（一九八二年七月まで）
- 一九八九年 七月 中国南京大学客員講師（同年八月まで）
- 一九九四年 一月 法学博士（慶應義塾大学）

学会及び社会活動

- 一九九四年 八月 米国ジョージ・ワシントン大学客員講師 (同年九月まで)
- 一九九四年 四月 横浜桐蔭大学法学部非常勤講師 (一九九五年三月まで)
- 一九九四年 四月 清和大学法学部客員教授 (現在にいたる)
- 一九九八年 四月 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科非常勤講師 (現在にいたる)
- 一九七二年 四月 日本国際政治学会理事 (一九九五年三月まで)
- 一九七六年 三月 財団法人国際文化交流財団奨学生選考委員 (現在にいたる)
- 一九九一年 四月 大学基準協会判定委員 (現在にいたる)
- 一九九三年 一月 (文部省) 学術審議会専門委員 (現在にいたる)
- 一九九四年 四月 日本スポーツ法学会監事 (現在にいたる)
- 一九九六年 四月 日華文化協会理事 (現在にいたる)
- 一九九七年 四月 日本スポーツ学会代表理事 (現在にいたる)
- 一九九八年 四月 放送番組センター理事 (現在にいたる)
- 一九九九年 四月 日韓文化協会理事 (現在にいたる)
- 一九九九年 四月 とうきゅう外来留学生奨学財団理事 (現在にいたる)

池井優教授主要著作目録

著書

- 『日本外交史概説』
- 『白球太平洋を渡る——日米野球交流史』（中公新書）
- 『増補・日本外交史概説』
- 『決断と誤断——歴史に学ぶ国際交渉・四五の名言とドラマ』
- 『オリンピックの政治学』（丸善ライブラリー）
- 『三訂・日本外交史概説』
- 『慶應義塾大学法学部政治学科百年小史——師友人物記』
- 『第二の故郷三田の山』

共編書

- 『浜口雄幸日記・随感録』
- 『近代日本とトルコ世界』

翻訳

- マイケル・ブレイカー『根まわし・かきまわし・あとまわし——日本の国際交渉態度の研究』

サイマル出版会 一九七六年

- 慶應通信 一九七三年
- 中央公論社 一九七六年
- 慶應通信 一九八二年
- PHP研究所 一九八九年
- 丸善 一九九二年
- 慶應通信 一九九二年
- 慶應義塾大学出版会 一九九八年
- 慶應義塾大学出版会 二〇〇〇年

- みずず書房 一九九一年
- 勁草書房 一九九九年

監 訳

アレン・S・ホワイティング『シベリア開発の構図——錯綜する日米中ソの利害』 日本経済新聞社 一九八三年
ハリソン・M・ホーランド『日米外交比較論』 慶應通信 一九八六年

論 文

「日本の対袁外交（辛亥革命期）」（一）・（二） 『法学研究』 三五巻四・五号 一九六二年
「第一次奉直戦争と日本」（英修道博士還暦記念論文集『外交史及び国際政治の諸問題』） 慶應通信 一九六二年
「パリ平和会議と人種差別撤廃問題」 『国際政治』 二二三 一九六三年
「第二次奉直戦争と日本」 『法学研究』 三七巻三号 一九六四年
“Japan's Response to the Chinese Revolution of 1911”

The Journal of Asian Studies, Vol.25, No.2, 1966

「満州事変をめぐる日米の相互イメージ」 『国際政治』 三四 一九六七年
「アメリカの『中共』像」 『思想』 五二三号 一九六八年
「近代日本における軍部の政治的地位」（慶應義塾大学地域研究グループ編『変動期における軍部と軍隊』） 慶應通信 一九六八年
「北朝鮮の外交政策」 『法学研究』 四一卷五号 一九六八年
「山東問題・五四運動をめぐる日中関係」 『法学研究』 四三巻一号 一九七〇年
「アメリカの対日政策——ライシャワー大使の役割を中心として」 『法学研究』 四三巻七号 一九七〇年
「中国の対外理解——『参攷消息』を手掛りとして」 『法学研究』 四三巻一〇号 一九七〇年
「日本の対ソ承認（一九一五—一九二五）——対ソ交渉過程の外交史的研究」 『法学研究』 四六巻一—一四号 一九七三年

- 「戦後日中関係の一考察——石橋・岸内閣時代を中心として」 『国際法外交雑誌』 七三卷三号 一九七四年
- 「アメリカの中国政策と中国研究」 『アジア経済』 一五巻七号 一九七四年
- 「宇垣一成の対外観——一九二〇年～一九三〇年を中心として」 『教養論叢』（慶應義塾大学） 四三号 一九七五年
- “Ugaki Kazushige's World View, 1920-1930” *Keto Journal of Politics*, No.2 一九七六年
- 「戦後日米関係における日本の交渉能力」（増田弘氏と共著） 『国際問題』 一九九号 一九七六年
- 「内田康哉——焦土外交への軌跡」 『国際政治』 五六 一九七八年
- 「日本人の中国観」 『法学研究』 五一巻五号 一九七八年
- 「日本外交と領土問題」 『海外事情』 一九七八年八月号 一九七八年
- “Ugaki Kazushige's View of China and His China Policy, 1915-1930” Akira Iriye edit. 一九八〇年
- “The Chinese and the Japanese-Essays in Political and Cultural Interactions” 『法学研究』 五三巻二号 一九八〇年
- 「日華協力委員会——戦後日台関係の一考察」 『法学研究』 五三巻二号 一九八〇年
- 「自民党の安全保障政策——六〇年安保・七〇年安保を中心として」 慶應通信 一九八〇年
- （堀江湛、池井優編『日本の政党と外交政策——国際的現実との落差』）
- 「一九三〇年代のマスメディア——満州事変への対応を中心として」 創世記 一九八一年
- （三輪公忠編『再考・太平洋戦争前夜——日本の一九三〇年代論として』） 慶應通信 一九八二年
- 「北京と代々木の間——中国と日本共産党」（石川忠雄教授還暦記念論文集『現代中国と世界——その政治的展開』） 慶應通信 一九八三年
- 「駐日アメリカ大使論——一九五二～一九八二」 『法学研究』 五六巻三号 一九八三年
- 「モスクワオリンピックボイコットの政治過程」（慶應義塾創立一二五年記念論文集・法学部政治学関係） 慶應通信 一九八三年
- “Postwar American Ambassadors to Japan: What Difference Do They Make?”

「一九四〇年『東京オリンピック』——招致から返上まで」(入江昭・有賀貞編『戦間期の日本外交』)

東京大学出版会 一九八四年

「日中スポーツ交流(一九五六—一九七二)——政治とスポーツの間」

『法学研究』五八巻二号 一九八五年
『法学研究』五八巻一号 一九八五年

「朝鮮戦争と日本」(小此木政夫・赤木完爾共編『冷戦期の国際政治』)

慶應通信 一九八七年

「日中戦争と日本のマスメディアの対応」

『法学研究』六一巻一号 一九八八年
『法学研究』六一巻五号 一九八八年

「吊問外交の研究——蔣介石総統の死去と日本の対応」

『国際問題』三四二号 一九八八年

「戦後国際政治とスポーツ」

『国際問題』三四二号 一九八八年

「東洋・オリンピック」『満州国』参加問題」(中村勝範編『近代日本政治の諸相』)
「外交の歴史的変遷」(有賀貞・宇野重昭・木戸菊・渡辺昭夫編『講座・国際政治 第二巻 外交政策』)

東京大学出版会 一九八九年

「戦後日ソ関係の一考察——日本対外文化協会の活動を中心として」

『法学研究』六三巻二号 一九九〇年

「ロンドン海軍軍縮問題と浜口雄幸」(波多野勝氏と共著)

『法学研究』六三巻一号 一九九〇年

「スポーツの政治的利用——ベルリンオリンピックを中心として」

『法学研究』六五巻二号 一九九二年

「上海列車事故をめぐる日中交渉」

『法学研究』六八巻一号 一九九五年

「日本国際連盟協会——その成立と変質」

『法学研究』六八巻二号 一九九五年

「日本社会党の対米外交——訪米使節団を中心として」

『法学研究』六八巻八号 一九九五年

「放言、失言外交の研究——藤尾発言と中曽根発言を中心として」

『法学研究』六八巻一号 一九九五年

「一九二六年近東貿易会議——日本トルコ関係史の一断面」

『法学研究』六九巻一二号 一九九六年

「中台関係と日米安保」

『法学研究』七一巻一号 一九九八年

「歴史に見る日本外交」(添谷芳秀・赤木完爾編『冷戦後の国際政治——実証・政策・理論』)

慶應義塾大学出版会 一九九八年

Condolence Diplomacy: Japan's Response to the Death of Chiang Kaishek

Keio Journal of Politics, No.10 一九九九年

資料紹介

「船津辰一郎前奉天総領事より出淵勝次外務次官宛満州・中国出張現地報告書簡」

法学研究三六巻七号 一九六一年

「アメリカにおける日本政治・外交史研究の現状」

法学研究三八巻一〇号 一九六五年

書評

田中直吉監修・金正明編『日韓外交資料集成第三巻』

『法学研究』三六巻三号 一九六三年

佐藤尚武『回顧八十年』

『法学研究』三六巻九号 一九六三年

Dorothy Borg, *The United States and the Far Eastern Crisis of 1933-1938*

『法学研究』二八巻五号 一九六五年

John A. White, *The Diplomacy of the Russo-Japanese War*

『法学研究』三九巻三号 一九六六年

中国柱『近代朝鮮外交史研究』

『法学研究』三九巻七号 一九六六年

Ian H. Nish, *The Anglo-Japanese Alliance: The Diplomacy of Two Island Empires, 1894-1907*

『国際法外交雑誌』六五巻六号 一九六六年

伊藤武雄・荻原極・藤井満州男編『現代史資料・満鉄(一)』

『朝日ジャーナル』七月三十一日号 一九六六年

稲生典太郎『日本外交思想史論考第一——条約改正論の展開』

『法学研究』四〇巻七号 一九六七年

A. T. Steel, "The American People and China"

『法学研究』四一巻一号 一九六八年

大山梓『旧条約下に於ける開市開港の研究——日本に於ける外国人居留地』

『法学研究』四一巻三号 一九六八年

曹汝霖『一生之回憶』

『法学研究』四一卷六号 一九六八年

角田順『満州問題と国防方針——明治後期における国防環境の変動』

『国際法外交雑誌』六七卷一号 一九六八年

K. T. Young, Negotiating with the Chinese Communists: The United States Experience, 1953-1967

『法学研究』四二卷九号 一九六九年

W・H・ハインリックス、麻田貞雄訳『日米外交とグルー』

『法学研究』四二卷一号 一九七一年

今宮新『初期日独通交史の研究』

『法学研究』四四卷四号 一九七一年

Peter Lowe, Great Britain and Japan 1911-15, A Study of British Far Eastern Policy

『法学研究』四四卷一〇号 一九七一年

海野芳郎『国際連盟と日本』

『法学研究』四五卷七号 一九七二年

永井陽之助・神谷不二共編『日米経済関係の政治的構造』

『法学研究』四六卷五号 一九七三年

臼井勝美『日本と中国——大正時代』

『法学研究』四六卷八号 一九七三年

Wm. R. Louis, British Strategy in the Far East, 1919-1939

『法学研究』四六卷九号 一九七三年

義井博『日独伊三国同盟と日米関係——太平洋戦争前国際関係の研究』

『法学研究』五一卷三号 一九七八年

近代日本研究会編『昭和期の軍部』(年報・近代日本研究一・一九七九)

『法学研究』五三卷八号 一九八〇年

東郷文彦『日米外交三〇年——安保・沖縄とその後』

『国際政治』七五号 一九八三年

外務省戦後外交史研究会編『日本外交三〇年——戦後の軌跡と展望』

『歴史と人物』昭和五九年一月号 一九八三年

三宅正樹他編著『昭和史の軍部と政治』

『東京新聞』三月二日 一九八四年

明石康『国連ビルの窓から』

『アジア研究』三二卷二号 一九八五年

衛藤藩吉・許淑真・鈴江言一伝——中国革命にかけた日本人』

『国際法外交雑誌』八四卷六号 一九八六年

澤田壽夫編『澤田節蔵回想録——一外交官の一生』

『東京新聞』七月一四日 一九八六年

筒井清児『石橋湛山——(自由政治家の軌跡)』

『国際法外交雑誌』八四卷六号 一九八六年

- 五十嵐武士『対日講和と冷戦』
 伊藤隆・渡辺行男編『重光葵手記』
 竹前栄治『日本占領——GHQ高官の証言』
 須藤真志編著『現代史——戦後世界の潮流』
 油井大三郎『未完の占領改革——アメリカ知識人と捨てられた日本民主化構想』
 樋渡由美『戦後政治と日米関係』
 宇佐美滋『揺れるアメリカ外交』
 草野厚『アメリカ議会と日米関係』
 入江昭『日米関係五〇年』
 石井修編著『1940年代ヨーロッパの政治と冷戦』
 リチャード・B・フィン・内田健三監修『マッカーサーと吉田茂(上・下)』
 細谷千博・本間長世・入江昭・波多野澄雄編『太平洋戦争』
 エドワード・ミラー、沢田博訳『オレンジ計画——アメリカの対日侵攻五〇年戦略』
 若泉敬『他策ナカリシラ信ゼムト欲ス』
 永田陽一『ベースボールの社会史——ジミー・堀尾と日米野球』
 クリストファー・ソーン、市川洋一訳『満州事変とは何だったのか』(上・下)
 井上寿一『危機のなかの協調外交——日中戦争に至る対外政策の形成と展開』
 洪沢研究会編『新時代の創造 公益の追求者・洪沢栄一』
- 『日本経済新聞』一〇月一二日 一九八六年
 『日本経済新聞』一月四日 一九八七年
 『日本経済新聞』一月一三日 一九八八年
 『文化会議』二三七号 一九八九年
 『日本経済新聞』五月二八日 一九八九年
 『公明新聞』七月二日 一九九〇年
 『公明新聞』一二月三日 一九九〇年
 『公明新聞』九月一六日 一九九一年
 『日本経済新聞』一〇月六日 一九九一年
 『公明新聞』七月一日 一九九二年
 『正論』七月号 一九九三年
 『公明新聞』四月一九日 一九九三年
 『正論』一〇月号 一九九四年
 『東京新聞』七月三日 一九九四年
 『アメリカ学会会報』一一五号 一九九四年
 『北海道新聞』一月二二日 一九九五年
 『日本歴史』五六三号 一九九五年
 『日本歴史』六二三号 二〇〇〇年